

# 草地の造成と利用

## 1. 牧草地

利用目的	区 分	草種と混播割合			播種		施肥成分量 (kg / 10 a)						収穫利用		
		草種	播種量 (kg / 10 a)	草種選定の考え方	播種期間 (播種適期)	播種方法	地目	総量(うち元肥)			追肥			利用期間	収量 t / 10 a
								窒素	燐酸	加里	時期	窒素	加里		
放牧利用 又は採草用	寒地型牧草	トルフェスク	2.0	基幹草種トルフェスク、オーチャードグラス、レッドトップ	9月下～10月下旬 (10月上旬)	散播	開墾地	2.8	3.4	2.6	放牧利用の場合	1.8	1.6	(放牧利用) 3月中旬～ 11月中旬 (採草利用) 同上 4～5回刈	放牧 6～7  採草 7～9
		オーチャードグラス	1.0～1.5					(10)	(34)	(10)					
		レッドトップ	0.3												
		イタリアンライグラス	0.2	イタリアンライグラスは集約管理できるところのみ加える。				既耕地	2.6	2.0	2.4	下牧直後分施	1.8		
計	3.5～4.0	(8)	(20)		(8)										
青刈乾草	暖地型牧草	バヒアグラス	3.0	基幹草種バヒアグラス	4月下～8月下旬 (5月下～6月上旬又は8月中旬)	散播	開墾地	3.0	3.4	2.8	採草利用の場合	2.0	1.8	(放牧利用) 2年目以降 5月上～10月 下旬 (採草利用) 同上4～5回刈	放牧 5～6  採草 6～8
		イタリアンライグラス	1.0～1.5					(10)	(34)	(10)					
		計	4.0～4.5					2.8	2.0	2.6					
		(8)	(20)	(8)											

栽培上の注意	<p>1、牧草の生育と温度との関係 寒地型牧草 5 以下で生育停止、生育適温 15～20、22 以上で夏枯れを起こしやすい。 暖地型牧草 10 以下で生育停止、25 以上で旺盛な生育を示す。</p> <p>2、飼料畑造成等の要点 (1) 未墾地等の飼料畑造成順序 障害物除去 土壤改良資材半量施用 耕起 土壤改良資材半量施用 施肥 播種 (覆) 鎮圧 (2) 耕起深度は 15 cm 程度とし、碎土整地は丁寧におこなう。</p> <p>3、栽培上の要点 (1) 播種床の条件が悪い場合の播種量は 20～50% 程度増量する。 但し、イタリアンライグラスの播種量は増量しない。 (2) バヒアグラスは発芽が悪い傾向があるので、発芽試験の結果を見て、播種量を加減する。 特にバヒアグラスは硝酸加里による種子の発芽処理を行う。 (0.4% 18～48 時間浸漬) (3) 放牧は草丈 30～40 cm 程度、採草利用でも 50 cm 以上としない。不食雑草の掃除刈りの実施。 (4) 2 年目以降の夏刈れ等の裸地部分には逐次追播して草地の維持管理に努める。</p>	<p>4、施肥上の要点 (1) 目標収量は寒地型牧草で 7,000 kg、暖地型牧草 6,000 kg 程度で設定した。 (2) 追肥は放牧型では下牧直後、採草型では刈り取り直後の施用を主体とするが、生育時期の要求量に応じて配分施用する。 (3) 火山灰土壌では燐酸を 3 割増程度とする。 (4) 土壌検定を行い、土壤改良資材を施用する。</p> <p>標準的な 開墾地 120 400 2,000 施用量 kg / 10 a 既耕地 60 200 1,200</p> <p>(5) 2 年目からの元肥は、早春肥とし 2 月～4 月に施用する。</p>
	<p>裁 培 上 の 注 意 事 項</p>	